

令和3年度高知県立農業大学校評価表

【A 十分達成（100%以上） B 概ね達成（100%未満80%以上） C やや不十分（80%未満60%以上） D 不十分（60%未満）】

外部評価 令和4年2月25日

[illegible]

評価項目	課 題	目 標	具体的方策	実 績（内部評価）	内部 評価	外部評価	外部 評価	次年度の対応
(2)カリキュラムの充実	○学生のキャリアパスが多様化 ○カリキュラムが過密	○時代のニーズにマッチした教育内容の充実 ○G-GAP認証の継続取得 ○全品目でGAPの考え方を実践 ○カリキュラムの見直しによる学生指導の充実	○専門科目の充実 ○ICTを活用したスマート農業の実践 ○進路希望別カリキュラムの実施 ○販売実習の実施 ○G-GAP認証に向けた実践教育 ・「GAP」講義の実施 ・適正な生産工程管理の実施、チェックリストの作成、内部評価、審査 ○カリキュラムの選択と集中による授業時間の削減（R4～）	(達成率100%) ○講義＜実施済＞ 6次産業化実習 大型特殊自動車（農耕車） ニワトリ解体 削蹄技術指導 SNSと農業 スマート農業 コース別教科 ○農大ショップ開催 7/29 10/7 11/18 12/23 ・日曜市 8/5 8/15 ・その他 4/17 11/20 1/15 ○G-GAP認証取得審査済み R3/11/19～R4/11/18 ○リスク管理 実施中 野菜全品目（6品目）で県版GAPを実施中（トマト、イチゴ、ナス、ピーマン、キュウリ、ニラ） ○履修時間の整理（学校教育法、農業改良助長法）、単位時間について検討し、カリキュラムを再編予定（R4～） ○聴講科目の充実 実施中（6月～） 4科目5名受講	A	スマート農業やGAP認証など時代に合った学習内容を生徒に提示し、生徒が興味関心を持ち取り組めるような工夫がある。また、探究的学びも学校内で実践できている。	A	新「高知県農業の核となる高い社会性と技術力を備えた人材育成」のためのカリキュラムの再編 ○スマート農業の充実 新進路別選択授業の充実強化 ○販売実習の実施 新県版GAPへの取組継続 野菜全品目（6品目） 新高知大学3年次編入学対応カリキュラム 新1時限の時間の短縮 ○聴講科目の充実

評価項目	課 題	目 標	具体的方策	実 績（内部評価）	内部 評価	外部評価	外部 評価	次年度の対応
(3) 基礎学力の向上	○農業に関する基礎学力に学生間差がある	○基礎学力の向上 (学校全体のレベル向上)	○1、2年の4月当初に学力テスト実施 ○基礎学力の向上 ・農業計算補習 (1,2年9名対象) ・国語(1年29名) ○入試合格者への課題提出 (数学、国語、基礎化学)	(達成率100%) ○農業計算補習実施済 (7/12終了) ○応募済み(100%) ○入試合格者への課題提出実施済 (推薦、前期) (数学、社会、基礎化学)	A	合格後の課題の提出などの取り組み等が行われている。 今後高知大学への編入なども見据えた一層の取り組みの工夫に期待したい。	A	○基礎学力の向上
(4) 社会人の養成	○社会人としての意識向上 ○コミュニケーション能力の向上 ○多様な学生への対応	○社会人として行動・実践できる人材育成 ○現状把握と対応策の検討 ○学生の人権意識醸成	○入校時の生活指導 ○接遇の講義、社会人マナー研修の実施 ○日常的な授業・生活指導 ○寮の定期的な部屋替え ○人権・メンタル面のカウンセリング実施<臨床心理士> (1年29名+2年9名)	(達成率80%) ○入校時に半日指導済 ○接遇の講義、社会人マナー研修の実施 実施済 ○授業・生活指導実施中 ○寮の定期的な部屋替え (3回実施済み) ○メンタルカウンセリング 実施済 6/28~8/3 ○発達障害者支援センターによる研修、カウンセリング (11/1,12/6、1/31) ○会計年度任用職員1名配置 職員への研修(11/11~週一回)	B	多様化する学生への支援等が必要となってきたが、高等学校との情報共有を図りながら積極的に改善を図っている。	B	○社会人としての意識向上 ○多様な学生への対応

評価項目	課 題	目 標	具体的方策	実 績（内部評価）	内部 評価	外部評価	外部 評価	次年度の対応
2 専門性の向上 (1) オランダとの交流	○レンティス校との交流維持	○国際的な感覚を備えた人材の育成	○オランダ・レンティス校学生の受け入れ（約10日間） ○補習による英会話能力向上 ○オランダ訪問団への参加（短期約10日間）（長期約1か月）	（評価不能） ○新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、受け入れ中止 ○英会話補習 週1回 実施中（2年1名 1年5名） ○派遣研修中止	—		—	○レンティス校との交流 ○英会話力向上
(2) プロジェクト活動の強化	○課題解決のための計画、実行、分析能力の向上	○卒論審査 全員合格 ○次世代ハウスを活用したプロジェクトの実施2課題以上	 ○四国意見発表会に参加（12月、2名） ○中国四国プロジェクト発表会に参加（1月、2名） ○実習後の実習日誌の指導（年間） ○次世代型ハウスを活用したプロジェクト実習（年間）	（達成率100%） ○プロジェクト審査全員合格（2年生） 4月 中間発表 9月 審査会（野菜、花き、畜産専攻） 12月 審査会（果樹） ○プロジェクトテーマ決定（1年生） 7月（野菜、花き、畜産、果樹専攻） ○四国意見発表会（1年生） 12月8日（2名発表）3位入賞 ○中国四国プロジェクト発表会（2年生）1月19日 リモート2名発表 → 1名優秀賞、全国大会へ ○全国プロジェクト発表会 2月1日全国第2位（優秀賞）受賞 ○実習日誌による指導実施済 ○高軒高ハウスでのプロジェクト活動（プロジェクト2課題実施済）	A	発表会において、一人一人の研究への取り組みの真剣さ、達成感を感じることができ、学生の学ぶ姿勢や今後の取組に大きな期待を持てた。 また、全国大会での入賞等も大きな成果であり、今後の学校の伝統の学びとして発展的に継続して行ってほしい。	A	○経営改善に資する実践的なプロジェクト課題への取組強化

評価項目	課 題	目 標	具体的方策	実 績 (内部評価)	内部 評価	外部評価	外部 評価	次年度の対応
(3) 法人の求める能力の育成	○コミュニケーション力の向上 ○農業法人との連携	○法人就農者の確保	○雇用就農に対応した講義の実施 ○法人とのマッチング・法人との意見交換会 ○法人へのインターンシップの強化 ○先進農家等留学研修の実施	(達成率89%) ・法人（雇用）就農割合 24% 法人（雇用）就農者数 6名 ○労務管理講義（2年生）実施済（1月） ○法人とのマッチング ・7月20日実施 ・10法人参加 ○インターンシップ 6/1～3 13法人実施済 9/1～3(ｺﾏﾝﾄﾞ感染拡大のため中止) ○先進農家等研修実施済 25名	D	留研やインターンシップなど能力向上の取組は出来ている。取組内容を見たとき魅力ある取り組みが計画されているが、コロナなどで十分な取組ができない部分もあり、その代替も含め今後の課題ではないだろうか。 また学校の職員間や生徒とのなかで、コロナに関して今はできないものの、今後に向けた準備期間として、次への方策を検討してほしい。	C	○農業法人との連携
(4) 各種資格・免許取得	○必要な資格免許の取得	○専攻課程に応じた免許取得者の確保 ○資格取得のための支援	○資格取得の必要性の周知、講義・補習実施 【資格・免許等】 危険物乙種4類取扱者 エクセル3級 フォークリフト 小型車両系建機(3t未満) 日本農業技術検定 大型特殊免許（農耕車限定）（選択） フラワー装飾（選択） （人工授精師は隔年試験でR3は未実施）	(達成率88%) ○合格者数 （目標達成率） ・乙種4類2名 乙種5類1名(30%) ・エクセル 3級 21名(84%) ・フォークリフト 28名(100%) ・小型車両系建機 28名(100%) ・農業技術検定 3級12名,2級4名(57%) ・大型特殊免許（農耕車限定） 16名（100%） ・ﾌﾗﾜｰ装飾 3級5名、2級2名 合計7名(70%)	B	就職および就農に必要な資格への挑戦および合格者数が増加している。特に新しい大型特殊免許などの取り組みは実践力と繋がる内容である。	A	○必要な資格取得支援

評価項目	課 題	目 標	具体的方策	実 績（内部評価）	内部 評価	外部評価	外部 評価	次年度の対応
3 進路支援活動の強化 (1) 就職活動の支援体制の強化	○卒業後直ちに就農できる学生は少ない ○就職活動の意欲が低い学生が散見 ○雇用就農できる生産法人の開拓	○進路指導の強化	○進路別カリキュラム（就農、雇用就農、就職コース）の支援 ○三者面談の早期実施 ・2年生：5月実施 ・1年生：7月実施 ○就職試験対策 ・面接補習、基礎学力補習 ・履歴書作成指導 ○求人情報の把握と紹介 玄関前、寮1階への掲示(毎月) ○個別にインターンシップ紹介 ○就職説明会の実施(3月) ○高知大学への四大編入の制度化に向けた取組	(達成率100%) ○進路内定者（3/31 現在） 100% 25/25名 自営就農 5名 雇用就農 6名 関連会社 6名 J A 3名 卸売市場 4名 その他 1名 ○三者面談 2年：5月 実施済 1年：7月 実施済 ○就職試験対策実施 ・面接補習、基礎学力補習 ・履歴書作成指導 ○R 5 年度から高知大への3 年次編入学実現予定（2 名）	B	進路保障という観点では、一定の評価はできると思われるが、県の求める数値目標から見た場合、更に新しい取組に期待したい。	B	○進路別カリキュラムの充実強化 参考 ○求人情報（R4年2月末現在）（R2/12） 県内企業 33社(22社) 県内求人数 61名(46名) 県外企業 22社(31社) 県外求人数 224名(387名)
(2) 就農支援	○将来の就農ビジョンが明確でない	○就農率の向上	○コース別による就農に向けた栽培・経営計画、目標の明確化（経営計画の策定、農業機械操作、ハウス張替、土づくり） ○J A 高知市青壮年部との意見交換会 ○地域担い手協議会・農業振興センターと連携（データの共有）	(達成率88%) ○就 農 率 44% 就 農 5名 雇用就農 6名 ○コース別教科 実施済 ○J A 高知市青壮年部との意見交換会→コロナ感染拡大のため中止 ○担い手協・振興センターと就農者情報について連携済	C	具体的な目標値を上げさせるなかで、現実とのバランスを取りながら、前向きに人生設計ができるように指導をしていただけたらと思う。 高知県の地域や環境の維持には地域で暮らす人材の育成が必要であり、そういう意味でもここにあげる数値にも拘ることが重要ではないでしょうか。	B	○進路別カリキュラムの充実強化 ○就農先関係機関との連携強化

評価項目	課 題	目 標	具体的方策	実 績（内部評価）	内部 評価	外部評価	外部 評価	次年度の対応
4 教職員のスキルアップ 研修の強化	○生産現場の課題をいち早く授業に取り上げて円滑な就農に結び付けることが必要 （再掲） ○多様な学生への対応	○各種研修への参加 ○現状把握と対応策の検討 ○人権等に関する教育手法の習得	○教官研修の受講 ○産地の栽培技術等の動向調査 ○人権・メンタル面のカウンセリング実施 <臨床心理士> （1年29名+2年9名） ○職場研修実施	（評価不能） ○新任研修 中止 ○西日本担当者会 野菜 中止 花き 不参加(入試日程と重複のため) 果樹 中止 畜産 中止 ○中国四国(教務) 中止 ○試験研究及び産地視察 67回実施 ○メンタルカウンセリング 実施済 6/28～8/3 ○発達障害者支援センターによる研修、カウンセリング （11/1,12/6、1/31） ○会計年度任用職員 1 名配置 職員への研修（11/11～週一回）	—		—	○教職員研修の充実 高校への授業参観 県教育センターへの研修参加（集合研修、オンライン研修） ○多様な学生への対応